

PHASE3「配る」 「子ども食堂」への支援

自社 サプライチェーン

配る

当社では本社がある品川区における地域貢献の一環として、「しながわ子ども食堂ネットワーク」に継続的に寄贈を行う支援を行っています

1. 乾麺の寄贈



乾物乾麺の展示ルームの品目入れ替え時など、寄贈を2018年より継続的にを行っています。2021年度も3回、計14箱寄贈しました

2. チョコレートの寄贈



2021年12月、チョコレート（24粒入り）16セットを寄贈しました

3. プラスチック容器の寄贈



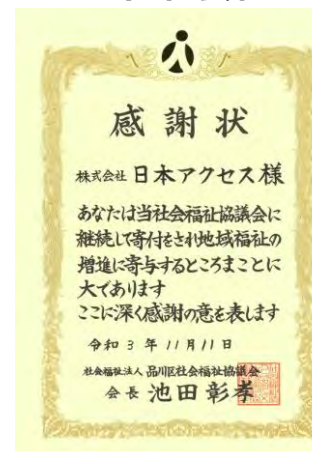
2022年1月、「子ども食堂運営者向け」にプラスチック容器300枚（50枚×6袋）×5箱を寄贈しました

しながわ子ども食堂フォーラムで展示



2021年6月26日、品川区立総合区民会館『きゅりあん』で開催された「しながわ子ども食堂フォーラム2021」において当社の活動もパネル展示され、来場者の方々に公開されました。

品川区社会福祉協議会より感謝状



2021年11月、当社の子ども食堂への継続的寄贈に対し、品川区社会福祉協議会より感謝状をいただきました！

中四国エリアにおいて、一般社団法人北長瀬エリアマネジメント様、物流企業:岡山スイキユウ様と当社が連携し、生活困窮家庭に24時間食料を提供する「**公共冷蔵庫**」に継続的に食品の寄贈を行う仕組みを構築しました。(2021.5月～)



日本初！ 公共冷蔵庫 「北長瀬コミュニティフリッジ」

運営会社:一般社団法人北長瀬エリアマネジメント

2020.11月、J R北長瀬駅前の複合商業施設に開設
生活困窮家庭が**24時間いつでも食料を受け取れる仕組み**
約400世帯が利用登録し、1日平均約70世帯が利用



物流企業:岡山スイキユウ

倉庫から公共冷蔵庫へ週5回無償搬送

2021.5.31 一般社団法人北長瀬エリアマネジメント様、岡山スイキユウ様、株式会社日本アクセスの3社で、協定調印式を行いました(右下の写真)

当社倉庫(岡山県早島町)

賞味期限が近づいたチルド食品や調味料などを提供



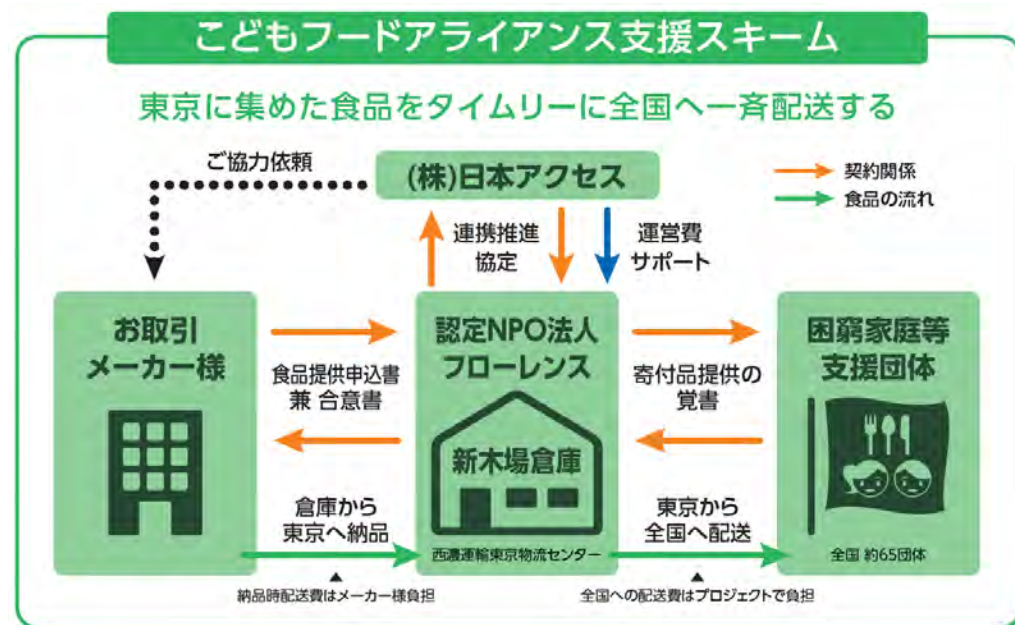
日本初！ 2022年1月、認定NPO法人フローレンスと協働し、全国の子育て家庭に食支援を届ける「こどもフードアライアンス」をスタートしました！

コロナ禍で子育て世帯の困窮が社会問題となっている中、NPO、大手メーカー、当社それぞれの特徴・強みを活かし連携して貢献ができる大規模な支援ネットワークを構築しました。

Florence 認定NPO法人フローレンス × **ACCESS** 日本アクセス



2022/1/12 当社社長佐々木淳一と
フローレンス駒崎代表で共同記者会見



認定NPO法人フローレンス

国内最大規模の認定NPO法人。多様な保育事業を運営するほか、こども宅食などの各種支援事業や政策提言活動、ソーシャルアクションを推進。

2022年1月、全国1万世帯規模での食品配送 ⇒次ページで詳細

2022年1月、「こどもフードアライアンス」トライアルとして、取引先の大手メーカー14社に協賛をいただき、当社は物流費の支援を行い、フローレンスから全国65団体に食品が届けられました。

大手食品メーカー14社に協賛いただき、

(一部ご紹介)

AGF®

S&B

日サトウ食品

NISSIN
日清食品



Nestlé. Good food, Good life

Hagoromo

ほごもフーズ

MARUHA NICHIRO
海といのちの未来をつくる

UCC
ひと粒と、世界に、愛を

常温保存食品を、
全国**65**団体
約**1万**世帯 に対し
約**8万**食
の支援を行いました



社会福祉団体(一社)チョイふる(足立区)
に届けられ仕分けされた食品

2022年度は規模を拡大し、継続して支援を行う予定です

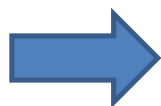
イトーヨーカ堂様と協力し、2018年8月より、以下のスキームでセカンドハーベスト・ジャパン様(フードバンク)へ食品の寄贈を行っています。

東京・神奈川のイトーヨーカドー5店舗



戻り便を利用して、「イトーヨーカ堂基準の販売期限は過ぎているが賞味期限は残っている商品」を回収

当社物流センター



セカンドハーベスト・ジャパン※)

寄贈



配布

児童養護施設の子供たち
DV被害者のシェルター
フードパントリー、生活困窮世帯 など



※)セカンドハーベスト・ジャパン

日本初・最大のフードバンク組織。フードバンクは品質に問題ないが流通出来ない食品を引き取り、必要としている方々に届ける活動。日本アクセスは2015年に「合意書」を締結し、継続的に寄付活動を実施。

「フードドライブ」とは、従業員が各家庭で使いきれない食べ物を持ち寄り、フードバンクなどに寄贈を行う取組です。社員の「消費者」としての食品ロス削減、また、意識付けの一環として行っています。2021年より3回実施し、その都度工夫を行い、進化、規模拡大を続けています。

進化
規模
拡大

1.労働組合にて実施

2021年2月2日～2月16日、当社労働組合の7支部(本社、八戸、茨城、北関東、静岡、山陰、長崎)にて、社員の家庭から未使用食品を集めました。



フード連合経由

2.大崎本社にて実施

2021年9月21日～10月1日、大崎本社にて行いました。本社内でメールやポスター等による案内を行い、**段ボール10箱分**の食品が集められました



フードバンク「セカンドハーベスト・ジャパン」に寄贈



3.労使共同にて実施

2022年1月～2月、初の試みとして、当社**労働組合と会社とで共同で**取組み・実施しました。前回を大幅に上回る14支部に亘り、大崎本社含め大規模に行われ、**段ボール53箱分**の食品が集められました



フード連合経由

商品破損・劣化、賞味期限切れ等、寄贈・配布もできず、廃棄となってしまった場合、
できるだけリサイクルを行うようにしています

リサイクル業者の探索

廃棄となる場合、通常廃棄物処理業者に委託をすることとなりますが、できるだけリサイクル処理（飼料化、肥料化、メタン発酵の順に検討）をしている業者を選びます。

選ぶ方法としては、

①農水省HP「登録再生利用事業者一覧表（全国161ヶ所のリサイクル業者リスト）」を参照、
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_7.html

②所管の自治体に相談

リサイクル業者との新規委託の際には、**必ず本社の専門部署が関与**の上契約を締結し、事前訪問し信頼できる業者であることを確認した上で委託を開始します。

リサイクル工場の事前現地確認
定期的実地確認(年1回以上)

